

# 平成 30 年度 別府市社会福祉協議会 事業報告

# 平成30年度 別府市社会福祉協議会 事業報告

## 事業報告（総括）

“自分らしく過ごせるぬくもりと支え合いのまち別府”実現のための第2次別府市地域福祉活動計画及び別府市社会福祉協議会発展・強化計画の初年度であり、その計画の実効性を高め、着実に推進するため、各施策の主担当の役割を明確にし、部門を越えた職員を副担当にした12のワーキンググループに分けて各事業の推進に取り組むとともに、そこで見えてきた課題解決のための協議を進め、新年度の事業計画や予算に反映するようにしました。

さらに「地域共生社会」に向けた多機関協働の包括的相談支援体制構築のために行政と共に進めました。

また、介護保険制度発足後、社会福祉法人以外の事業所が多数参入し、介護従事者が充実してきた中、本会としては複合化する在宅福祉に新たに対応するために、平成30年度末をもって訪問介護事業所のサービスを終了しました。そのため行政や民間事業所にはできない、社協が担うべき在宅福祉を念頭に、地域住民の「ほんの支え合い」活動としての訪問ボランティア事業（有償ボランティア）を制度設計し、新年度からの事業開始としました。

経営基盤の安定につきましては、自主財源の確保に向けた取り組み協議を行うとともに、毎月の月次報告を四半期ごとに収支分析・予測を行うことにより、迅速に対応することを徹底しました。その結果としまして、昨年度に続き決算見込みでは、今年度予定しておりました基金の取り崩しを回避することができるとともに、平成31年度当初予算編成段階でも新会計が導入された平成23年度以来となる基金の取り崩しを予算計上しないことに繋がったものと考えます。

福祉推進部門では、行政との受託事業を着実に推進するとともに、社会福祉協議会が果たすべき使命や役割をしっかりと確認して、市民や地域に信頼される社協を目指し、常に地域に出向いて生活課題を共有し、共に課題解決に取り組むことを徹底し、各地区の地域資源や特色等を把握するために、17地区社協データの集積に取り組むなど、地域住民等との協働による福祉と健康のまちづくりに向けた取り組みに努めました。

さらに、全国で地震、風水害、台風等の災害が多く発生しており、7月の西日本豪雨災害で被害にあった広島県坂町災害ボランティアセンター運営支援業務に職員をいち早く派遣して支援にあたらせました。また、災害ボランティア運営スタッフ検討委員会や研修会、リーダー研修会等にも職員を参加させ、災害ボランティアネットワーク構築にも取り組みました。

以下、平成30年度の各部門の事業等についてご報告します。

## 管理係

### <情報・発信力の強化>

発展強化計画 基本目標1

本会の広報誌「べっぶ社協だより」を毎月発行し、市内の全世帯を対象に配布しました。また、11月号から紙面をA4サイズ両面からA3サイズ両面に変更し、情報量を増やし情報発信の強化に努め、社協活動及び地域活動や各種団体活動の周知と情報の提供に努めた結果、市民の社協への関心が高まり、問い合わせが増えました。

### <理事会・評議員会・その他委員会機能の活性化>

発展強化計画 基本目標2

法人の運営にあたり、理事会・評議員会等への議案を1週間前に送付するように努め、資料作成についても事業の状況をわかりやすくすることに心がけました。

また、理事、評議員を含め関係者に定期的な状況を報告することが不十分であり、運営に参画していただく機会を設けるなど、運営の評価や検証ができる場を検討しています。

#### □理事会の開催

第1回 平成30年5月24日（木）13時00分 場所 別府市役所

出席 9名 監事出席 2名

議題第1号 平成29年度事業報告及び決算報告について

議題第2号 平成30年度収支補正予算について

議題第3号 諸規程の改正について

議題第4号 評議員選任・解任委員会の選任について

議題第5号 評議員候補者の推薦について

議題第6号 平成30年度定時評議員会の招集について

議題第7号 報告について

第2回 平成30年9月19日（水）13時30分 場所 別府市社会福祉会館

出席 10名 監事出席 2名

議題第1号 訪問支援事業所の方針について

議題第2号 平成30年度収支補正予算について（2回目）

議題第3号 平成30年度第2回評議員会の招集について

第3回 平成31年3月8日（金）13時15分 場所 別府市役所

出席 12名 監事出席 2名

議題第1号 平成30年度収支補正予算（第3回）について

議題第2号 平成31年度事業計画及び収支予算について

議題第3号 定款の一部改正について

- 議題第4号 諸規程の改正について
- 議題第5号 理事候補者の推薦について
- 議題第6号 評議員選任・解任委員会の委員の選任について
- 議題第7号 平成30年度第3回評議員会の招集について
- 議題第8号 報告について

□評議員会の開催

第1回 平成30年6月11日（月）10時30分 場所 別府市社会福祉会館

出席 14名 監事出席 2名

議題第1号 平成29年度事業報告及び決算報告について

議題第2号 平成30年度収支補正予算について（第1回）

第2回 平成30年9月26日（水）13時30分 場所 別府市社会福祉会館

出席 15名

議題第1号 訪問支援事業所の方針について

議題第2号 平成30年度収支補正予算について（第2回）

第3回 平成31年3月22日（金）14時30分 場所 別府市社会福祉会館

出席 12名 監事出席 2名

議題第1号 平成30年度収支補正予算（第3回）について

議題第2号 平成31年度事業計画及び収支予算について

議題第3号 定款の一部改正について

議題第4号 理事候補者の推薦について

議題第5号 福祉サービス等改善向上委員会の委員の選任について

□評議員選任・解任委員会の開催

第1回 平成30年5月28日（月）10時20分 場所 別府市社会福祉会館

出席 4名

議題第1号 評議員候補者の選任について

□監査

平成30年5月15日（火）10時00分 場所 別府市社会福祉会館

結果：事業状況、収支決算状況とも特に指摘事項なし

## <人材確保と人財育成>

発展強化計画 基本目標2

職員による勉強会や、研修参加や専門性の高い資格取得の受講を行い、また、人財育成の策定計画を行うことで、計画的な人材確保等、スキルアップを図るための環境づくりに取り組みました。

### ●職員研修受講一覧

研修会内容	参加回数
キャリア研修	14
専門研修	40
スキルアップ研修	11

### ●その他の研修

- 職員ワーキンググループ…45回（5月～8月）
- 職員研修会…人権学習（8月）、救急講習（10月）、交通安全講習（12月）
- 社会福祉主事スクーリング…5月22日～26日（神奈川）
- 自立相談支援事業従事者養成研修（前期）…7月3日～5日（全社協）
- 主任相談支援員養成研修（後期）…8月21日～24日（神奈川）
- 認知症支援DCM法研修基礎コース…3月7日～9日（愛知県）
- 平成30年度 我が事・丸ごと地域共生社会推進人材養成研修会（県社協）  
第1クール～第4クール実施期間…7月20日～2月22日（計8回／職員6名受講）

## <会員制度の充実及び入会の促進>

発展強化計画 基本目標3

会員規程に基づき、広く市民を対象に会員の拡充強化を図りました。一般・特別会員の増加により前年を上回る実績となりました。

また、「社協だより」での氏名（法人名）掲載、強化月間への取り組み実施や、振込書作成の検討及び各関係企業及び団体等への依頼計画について協議するなど、会員拡充への調査研究に努めました。

□会費収入総額 515口 598,000円（29年度401口 537,500円）

- ・一般会費（個人一口500円） 90口 45,000円（29年度 23口 11,500円）
- ・特別会費（個人・団体一口1,000円） 393口 393,000円（29年度 341口 341,000円）  
（本会役員、自治委員、民生児童委員、地区社協、福祉関係団体などの個人・団体会員）
- ・法人会費（法人一口5,000円） 32口 160,000円（29年度 37口 185,000円）  
（福祉施設、会社、事業所等の団体会員）

## <寄付金収入の拡充>

発展強化計画 基本目標3

市民の方々から地域福祉の推進のために寄附された香典返し、一般寄附などは 326 件、11,139,272 円になりました。寄附金については、香典返し・一般寄附金件数は共に減っています。

今後も引き続きホームページや社協だよりを通して、社協活動の周知をすると共に、財源確保のための福祉募金箱についての検討を行い、デザインやネーミング及び設置場所や回収方法についての調査研究に取り組みました。

(単位：円)

内訳 年度	香典返し寄附金		一般寄附金		物品寄附金		寄附金合計額	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
30年度	245	7,143,000	77	3,341,772	4	654,500	326	11,139,272
29年度	279	8,635,000	62	3,411,875	5	1,064,500	346	13,111,375

### □物品寄附

- ・時計 1件 60,000円
- ・車いす 3件(9台) 594,500円

## <補助金のルールづくりと受託事業の効率化>

発展強化計画 基本目標3

人件費ベースの積算方法から事業ベースの積算方法(人件費含む)の協議資料を作成し、社協の担うべき事業の充実強化と組織運営の効率化、安定した財源確保に取り組むなど、別府市補助金交付指針に準じて、成果目標に努めます。

## 福祉推進係

### <生活支援体制整備事業> (別府市受託事業)

活動計画 基本目標1・2

今年度は第1層・2層で連携し、ネットワーク機能の構築を行う上で、資源把握・関係機関との情報共有等を行い地域に出向き状況把握及び本制度の周知を85回、サービスの担い手の養成に関することに17回、研修・会議その他の出席が22回、市民を対象とした講演会を2回(合計330)の事業を推進しました。その中で第2層の地域包括支援センターが実施してきた地区別ワークショップから見えてきた地域課題について、地域での新たな担い手の育成から生活の中でちょっとした困りごとに対応できる制度の創出について職員間でのワーキンググループでの協議を5回実施し、次年度に向けての制度設計を行いました。

また、第1層協議体設置について、行政からの提案もあって出席した地域ケア会議等から見えた地域課題検討会を第1層協議体として見立てることで、実施主体である別府市が中心となることで良い方向性が見え、第1層協議体の設置に向けて取り組みました。

#### □生活支援コーディネーター活動実績

内容と件数 活動合計 126件

<b>資源把握</b>	<b>60件</b>
<b>既存資源の把握</b>	<b>32件</b>
・上田の湯町いきいきサロン支援及び状況把握	他31件
<b>サービスの担い手の養成</b>	<b>17件</b>
・別府市認定生活支援サービス従事者研修会	他16件
<b>元気な高齢者が活動する場の把握</b>	<b>11件</b>
・野田ゆうゆうクラブ支援及び状況把握(自治会主催)	他10件
<b>ネットワーク機能の構築</b>	<b>66件</b>
<b>関係機関との情報共有</b>	<b>42件</b>
・民生委員・児童委員協議会地区定例研修会支援	他41件
<b>その他の活動</b>	
<b>研修・会議その他</b>	<b>24件</b>
・我が事・丸ごと地域共生社会推進人材養成研修会1～4クール(6名参加)	他21件
・生活支援体制整備事業「支えあう地域づくり講演会」	7月27日 14:00～15:30開催 ※講師 やねだん集落自治会長 豊重 哲郎 氏 (別府公会堂/250名)
・生活支援体制整備事業「支えあう地域づくり講演会」	11月9日(月) 10:00～11:30開催 ※講師 motto ひょうご 栗木 剛 氏 (サザンクロス/80名)

## <地区社協との連携・活動の協力支援>

活動計画 基本目標1・2・3 (発展強化計画 基本目標1)

国が推進する「我が事・丸ごと地域共生社会」の別府版「まちまもり・ひとまもり」を実現するべく、市内17校区に対する、協力・支援並びに連携等を行い、地区社協の活性化に努めました。

地区社協への助成金については、財源が共同募金の配分金収入であり、毎年募金収入が減少しているため、他の財源として社協会費加入協力をお願いするとともに、他機関による助成金制度紹介等を行いました。

小学校区再編にともなう地域割見直しを踏まえ、地区社協連絡協議会規約改定を提案し、地域の実情に即したより活発な活動の支援をしたいと考えています。

### ・地区社協連絡協議会

開催日	場所	内 容
平成30年 4月24日	福祉会館	平成29年度事業実施報告、平成30年度事業計画及び各種助成金等
平成30年 6月19日	福祉会館	会長・副会長選任・社会を明るくする運動、組立式募金箱配布依頼等
平成30年 8月29日	福祉会館	社会を明るくする運動終了、福祉まつり開催概要等
平成30年10月19日	福祉会館	組立式募金箱開封式・歳末街頭募金協力依頼、社協だより等
平成30年12月19日	福祉会館	福祉まつり他終了、社会福祉大会「社会福祉事業功労者表彰式」等
平成31年 2月26日	福祉会館	社会福祉事業功労者表彰式、地域福祉講座、規約改正等

### ・地区社協事業

開催日	場所	内 容
6月29日～7月29日	市内	社会を明るくする運動（三世代交流スポーツ大会・パレード等） 17地区2,385名参加
11月11日	別府公園	福祉まつり（出店協力、地区社協に属する団体との協力・親睦）
11月15日	福祉会館	組立式募金箱開封式（開封作業協力） 各地区2名参加
12月1日～7日	市内	歳末たすけあい募金（街頭募金活動協力） 17地区252名参加
年間	市内	給食サービス（一人暮らし高齢者昼食会・宅配）
年間	市内	三世代交流事業・スポーツ大会等
年間	市内	いきいきサロン

## ◇福祉協力員活動への協力・支援等

国が推進する「我が事・丸ごと地域共生社会」の別府版「まちまもり・ひとまもり」を実現するため、市内17地区社協に設置している「福祉協力員」を活性化することが、地域福祉の充実のため福祉協力員連絡協議会と連携等を行い、福祉協力員を対象にした研修等を開催するなか、今年度は別府市生活支援体制整備事業と連携した研修会も行いました。今後の目標として、同じく担い手不足に悩む民生委員の育成の場になるよう福祉協力員の発掘や資質向上のため、本会の社会的資源を活用して連携を図っていききたい。



## ・福祉協力員研修会

開催日	場所	内 容
平成30年 7月27日	公会堂	地域での支えあい体制づくりに向けて～別府でも築こう、感謝と感動の地域づくり～
平成31年 3月26日	福祉会館	PEP TALK!

### <ボランティアセンター事業>

#### 活動計画 基本目標2 (発展強化計画 基本目標1)

住民のボランティアに対する理解を深め、より一層の活動の活性化を図るため、地区ごとのニーズに応じたボランティア募集について、職員間のワーキンググループで検討を行い、住民が参加しやすいボランティア活動として、ちょっとした事を有償で頼める「訪問ボランティア事業」を制度設計しました。

また、若い世代への参加推進のためにボランティア協力校も1校増やし、さらに若年層の福祉学習の推進による活動参加促進を図るため、市内幼・小・中学校に講師の紹介や高齢者の疑似体験の出前講座を10回実施するなど、行政・当事者団体等と協働した福祉学習にも積極的に取り組みました。

#### (1) ボランティア活動支援・ボランティア活動保険の加入

ボランティア活動の希望者へ活動先の紹介を行うとともに、活動を依頼する施設や地域との活動調整を行い、また、ボランティア活動中にボランティア自身の事故や、第三者の身体その他に損害を与えた場合に、見舞金や賠償金を支払う内容のボランティア活動保険の加入受付をしています。以前の課題では、活動希望者に対し、活動先が不足していた事があり、市内の福祉施設へボランティア受入調査を行い、ボランティアセンターとしての機能強化に努めました。

- ・ボランティア登録者数：58団体 2,190人、個人69人 計2,259人  
(平成29年度 58団体 2,008人、個人78人 計2,086人)

#### (2) ボランティア連絡会との連携、援助

社協登録の個人ボランティア及びボランティアグループで結成する任意団体であり、ボランティア同士が相互に情報交換や交流を深め、別府市のボランティア活動の振興を目的とした会です。メリット不足により会員の減少が続いていたが、積極的に個人ボランティアへ参加を促し、また、懇親会等実施し、個人会員の増加につながったが、団体の加入不足が課題です。(団体登録9/個人登録37)

#### (3) ボランティア協力校への育成援助

市内の小・中・高・支援学校の児童・生徒を対象として、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア活動・社会連帯の精神を養うとともに児童・生徒を通じて家庭及び地域社会の福祉活動の啓発を図ることを目的とし、市内の学校へ協力校募集の案内を行い、申請のあつ

た2校を指定校とし、助成を行いました。申請校が少ないため、3か年計画の見直しの検討も必要と考えられ、募集案内も早めに行う必要があります。(平成30年度より3か年・明豊高等学校・溝部学園高等学校)

#### (4) 夏のボランティア体験事業の実施

学生・生徒及び社会人に夏休みを中心とした一定期間、ボランティア活動を体験することにより、自分たちが住む地域社会の福祉課題や地域課題を理解していただき、ボランティア活動への積極的な参加を促進し、ボランティア活動の振興を図ることを目的としています。

参加者数は年々減少傾向であったが、平成29年度は58名、平成30年度は100名と増加している。近年災害が多発していることによりボランティア活動への意識が高くなっていることと受入施設の増加も理由にあります。

課題として、参加希望者がいない施設に対してのフォローができる仕組みづくりやマッチングが必要です。

- ・期間：平成30年7月21日～8月31日
- ・受入施設：市内41施設（平成29年度 31施設）
- ・参加者数：100名（平成29年度 58名）

#### <介護支援ボランティア事業> (別府市受託事業)

活動計画 基本目標2

社協だよりや講演会で事業周知を強化したため、ボランティアの登録者数も増加し、障がい者施設を含む受け入れ施設も増加しました。また一方で、ボランティアと事業所間で、本事業趣旨にそぐわない苦情が上がっているため、再度ボランティアと事業所に丁寧に説明を行い、マッチングしていく必要があります。

□活動実績

	30年度	29年度
ボランティア登録人数	119名	118名
受入機関	75施設	68施設

□ボランティア活動人数

	30年度	29年度
延人数	1,641	1,463
実人数	791	667

□活動内容 (複数選択可)

活動内容	30年度回数	29年度回数
レクリエーション等の参加支援又は補助	381	516
お茶出し、食堂内の配膳、下膳等の補助	210	386
散歩、外出、施設内移動等の補助	6	7
話し相手	321	466
受入機関の職員と共に行う軽微かつ補助的な活動	207	265
行事の手伝い(模擬店、会場設営、芸能披露等)	401	278
その他(生け花、入浴後のドライヤー等)	519	373

## □別府市介護支援ボランティア講演会の開催

介護支援ボランティア登録者に対しての研修と、未登録の住民に向けて事業の広報を目的として開催し、ボランティア活動の他、普段の外出や近隣とのお付き合い等を通じて健康維持や生きがいづくりが期待できるという内容で講演を行いました。

- ・平成30年3月19日（火）13時30分～
- ・演題「頭すっきり心ほっこりやっぱり楽しいボランティア」
- ・講師 motto ひょうご 栗木 剛 氏                      ・参加者 77名

## <災害対応>

### 活動計画 基本目標3（発展強化計画 基本目標1）

7月の西日本豪雨災害で被害にあった広島県坂町災害ボランティアセンター運営支援業務に5名の職員を交代で派遣し、また、亀川地区総合防災訓練に8名、境川地区避難運営訓練に3名、南地区防災訓練に2名、災害ボランティア運営スタッフ検討委員会や運営リーダー研修会への職員の出席や、災害時における支援者育成のための災害ボランティア養成講座へ2名受講いたしました。

また、災害ボランティアネットワーク協議会の設置に向けての職員間でのワーキンググループでの検討を5回、全職員による発災時における初動訓練を実施する中での問題提示から、発災後の初動マニュアルを整備するなど、職員間の共通認識に取り組みました。

### （1）別府市災害ボランティアセンター設置運営訓練

- ・日時：平成30年12月22日 8：30～12：00
- ・場所：別府市社会福祉会館大広間～ミーティングルーム
- ・人数：11名
- ・訓練内容：平成30年3月に作成した「別府市社協災害時初動体制マニュアル」の内容を検証するとともに各グループに分かれ、参集から2時間、発災から5～6時間、発災から6時間以降を想定したグループワークを実施し、課題、協議が必要な団体等について話し各職員がどのような役割で、何をしなければならないかを確認しました。

本年度は、センターを設置する前の訓練のみとなったため、年間での実施計画を立て、職員の意識を向上させ、職員が被災した場合においても速やかに支援が行える体制をつくらなければならない。

### （2）平成30年7月豪雨広島県坂町災害たすけあいセンター運営支援

大分県社会福祉協議会からの協力依頼要請に基づき、坂町災害ボランティアセンターの運営支援を行いました。（7月9日～12月8日）

#### □運営スタッフ派遣人数

- ・派遣日・人数                      ・7月15日～7月18日（2名）

・ 9月14日～9月19日（2名）

### （3）総合防災訓練及び避難所運営訓練参加

#### □亀川地区総合防災訓練

- ・ 日時：平成30年4月15日 10：30～12：00（集合9：00）
- ・ 場所：亀川地区全域～北部中学校
- ・ 社協職員参加人数：5名
- ・ 訓練内容：地震発生とともに住民は地域内の支援を要する者等に対し、声掛けや支援を行いながら避難する。また、高台への避難者等をバス車両を使用して北部中学校まで移送する地域連携訓練と電車が運転できない想定の上で降車してからの誘導訓練を行いました。社協は、集合場所の北部中学校で今後のボランティアに対するボランティア活動保険の案内及び災害ボランティアセンターについてのパネル展示及び説明、また、JR訓練の補助を行いました。

#### □亀川モデル地区避難所運営訓練

- ・ 日時：平成30年11月25日 8：30～12：00（集合7：30）
- ・ 場所：北部中学校
- ・ 社協職員参加人数：8名
- ・ 訓練内容：大きな災害が発生した場合に、各機関が協力・連携し、地域主体で円滑な避難所運営が行えるよう協議・決定した避難所運営要領について、その内容を検証する目的で実施。社協は、各班に分かれ、避難者役や訓練運営及び評価担当者となりました。

#### □南地区浸水域防災訓練

- ・ 日時：平成30年12月9日 9：00～12：00（集合8：45）
- ・ 場所：南地区全域、別府市公会堂前、旧南小学校
- ・ 社協職員参加人数：2名
- ・ 訓練内容：別府公会堂前まで避難し、バスで旧南小学校まで避難社協は、段ボールベッド、簡易トイレ設置やバケツリレー等訓練への参加をしました。

#### □境川モデル地区避難所運営実働訓練

- ・ 開催日時：平成31年3月17日 8：30～12：00（集合8：00）
- ・ 開催場所：境川小学校
- ・ 社協職員参加人数：3名
- ・ 訓練内容：大きな災害が発生した場合に、各機関が協力・連携し、地域主体で円滑な避難所運営が行えるよう協議・決定した避難所運営要領について、その内容を検証する目的で実施。社協は、各班に分かれ、避難者役や訓練運営及び評価担当者となりました。

#### (4) 防災士資格

- ・平成30年度の資格取得者はいません。

#### <共同募金事業>

##### 活動計画 基本目標4 (発展強化計画 基本目標3)

別府版のチラシを作成、地域に出向き使い道の啓発、説明に努めました。

また、歳末たすけあい募金での浄財を公募型に変更したことで、資金を必要とする団体等に効果的に配分を行い、さらに職域・法人募金の強化や、募金百貨店プロジェクト等、新たな企業への参加について、職員間のワーキンググループで検討を行いました。

#### (1) 赤い羽根共同募金

実績額は12,162,497円で前年度比51,619円の増額でした。

配分については、平成29年度募金平成30年度配分金として地区社協及び各種団体へ配分金として助成を行っています。共同募金が減少傾向にあることから平成29年度に助成額を見直し、減額しております。

一般募金収入6,372,000円であることから465,300円の減額となっており、募金計画の整備及び3年ごとの助成額の見直しが必要です。

#### □一般募金配分金

(単位：円)

団体名	平成30年度	平成29年度	前年度比	備考
17地区社会福祉協議会	5,920,300	5,927,200	△6,900	
別府市ボランティア連絡会	50,000	50,000	0	
別府市子ども会育成会連合会	127,000	87,000	40,000	前年度は1事業中止
別府市老人クラブ連合会	85,000	85,000	0	
別府市母子父子寡婦福祉会	85,000	85,000	0	
別府市身体障害者福祉団体協議会	135,000	135,000	0	
別府市遺族会連合会	0	25,000	△25,000	助成終了
別府保護区保護司会	85,000	85,000	0	
別府市更生保護女性会	50,000	50,000	0	
別府市民生委員児童委員協議会	180,000	180,000	0	
別府市民間社会福祉施設連絡会	120,000	0	0	
計	6,837,300	6,709,200	8,100	

## (2) 歳末たすけあい募金

実績額は 2,093,039 円で前年度比 448,634 円の減額でした。

新たな年を迎える時期に、支援を必要としている人々が安心して暮らすことができるよう実施している募金で地域による歳末事業、福祉施設による歳末事業に配分しています。

以前は配分先を指定していましたが、募金額の減少傾向により、本年度から、真に必要としている施設・団体へ配分するため、応募型へ変更いたしました。

### □歳末たすけあい募金配分金

(単位：円)

団体名	平成30年度	団体名	平成29年度
地区社会福祉協議会 (17)	650,400	地区社会福祉協議会 (17)	650,400
福祉団体 (3)	120,000	福祉団体 (8)	420,500
NPO法人 (6)	186,000	旧小規模作業所 (11)	320,300
福祉施設 (3)	150,000	認可外保育園 (4)	257,900
保育園 (6)	259,000	児童クラブ (28)	342,000
児童クラブ (11)	225,000	企業内保育所 (5)	110,200
ボランティアグループ (1)	50,000	社協 (福祉まつり)	700,000
社協 (子ども食堂・福祉まつり)	520,000		
合計	2,160,400	合計	2,801,300

## <別府っ子応援事業>

### 活動計画 基本目標1

平成30年度から実施を始め、「活動支援」については2件、「奨学金支援」の決定については、別府市奨学生選考委員会の審査方法に準じ15名を選定いたしました。また、子ども食堂等の開設及び推進に関わる諸事業に1件、福祉教育での訪問ワークショップでは、行政・当事者団体と協働し幼・小・中へ10件、訪問し積極的に取り組みました。

また、本事業に賛同していただいた団体等(1個人・2団体)より、別府っ子応援アクションとして、1,815,000円の寄附がありました。



□法律相談（毎月 第1火曜日）

※相談件数 73 件（29 年度 118 件）

財産、相続等のトラブルに関する法律的なことに対し、適切な助言、関係機関等への紹介を行っています。主な相談内容としては、相続問題が一番多く、次いで、離婚、近隣とのトラブル医療や福祉サービス利用上の事故に伴う損害賠償など、専門的な助言を求めるものとなっています。

項目	多重債務	相続遺言	夫婦離婚	近隣関係	金銭貸借	損害賠償	賃貸契約	養子親権	その他	総合計
30年度	2	25	12	12	11	7	3	1	0	73
29年度	2	40	20	11	9	7	14	2	13	118

なお、内外の専門相談窓口が充実する中で、平成30年度から他機関の専門相談窓口との役割分担を明確にして、さまざまな相談に応じ、法テラス、消費生活センター、司法・行政書士会等専門職の定例相談会等に繋ぎ、住民の悩みごと解決に努めています。

□ボランティア相談

※相談件数 91 件（29 年度 80 件）

ボランティア活動に関することに対し、適切な助言、関係機関等への紹介を行っています。福祉施設のボランティア受け入れ調査によりボランティア活動の機会が増えたが、施設側からのボランティア派遣要請も増加し、担い手の養成講座の実施等が必要です。

### <生活困窮者自立支援事業>

#### 活動計画 基本目標1・3（発展強化計画 基本目標1）

相談者の抱える困りごとについて、一緒に内容の把握・整理を行い、社会的自立に向けた「寄り添い型の相談支援」を実施しました。

毎月の新規相談受付件数については、国は人口規模 10 万人あたり 16 件を示していますが、本市では、毎月平均 21 件となっています。

「困りごと」の数値で一番高い「収入・生活費相談」の内容の変化については、制度施行時の失業等から、病気（特に精神疾患）、障害（発達障害の疑いのある者）や高齢者からの収入・生活費相談と内容が移っています。

相談者は、「複合的課題」を抱えており、解決に向けては、市関係課、障がい者・高齢者支援機関、医療機関、本会が受託している認知症初期集中支援チーム等関係機関と連携を図り支援に取組みました。

年金高齢者や潜在化しているメンタルヘルス課題のある方が、一人でも多く相談に結びつく事ができるように対象者向けの「ちらし」を検討します。



□相談者一覧（実人員）

区分	30年度	29年度
新規相談者	269	184
再相談者	204	377
住居確保金支給者		10
計	473	571

□相談者の世帯（実人員）

世帯	30年度世帯数	29年度世帯数
単身世帯	85	84
1人親（母子・父子）	—	—
家族世帯	125	88
その他	59	12
合計	269	184

□新規相談方法

相談方法	30年度回数	29年度回数
電話	135	145
来所	129	225
訪問	5	47
その他		0
合計	269	417

□新規相談者の属性・年代

年代	30年度人数	29年度人数
10代	—	—
20代	12	14
30代	25	27
40代	29	35
50代	31	33
60代	32	27
70代以上	40	35
不明	100	13
合計	269	184

□新規相談内容（実人員）※複数あり

相談内容	30年度件数	29年度件数
収入・生活費	98	120
住まい	32	33
債務・負債	23	25
就労	21	24
食べる物がない	20	31
ひきこもり・不登校	10	11
子育て	4	3
近隣トラブル	5	2
コミュニケーションが苦手		0
障がい（疑い）・病気	49	54
就職定着困難		2
就職活動困難		18
生活習慣の乱れ		0
家族・人間関係問題	9	19
介護	7	8
家賃・ローン支払い	23	41
DV・虐待	2	5
税金・公共料金の支払い	11	30
仕事上の不安・トラブル	8	2
家計管理		2
その他	92	34
不明		0
合計	414	217

## <生活福祉資金>（大分県社協受託事業）

### 活動計画 基本目標1

低所得者、障がい者又は高齢者世帯に対し、資金の貸し付けと必要な相談支援を行うことにより、その経済的自立及び生活意欲の助長促進並びに在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活が送れるよう援助しています。

なお、生活困窮者自立支援法に基づく各事業と連携し、効果的、効率的な支援を実施することにより、生活困窮者の自立の促進を図ります。

貸付の傾向としては、福祉資金での一時的な生計維持を目的とした緊急小口のニーズが高く福祉費は近年の猛暑の影響から要保護世帯への日用品購入費用が主な理由になっています。総合支援資金については、リーマンショック後に激増しましたが、ここ数年は相談もなく落ちついています。

また、教育支援資金の申請に対し決定件数及び金額の減少は、高校進学に際し公立・私立併願申請者の貸付決定辞退受理のためです。

□生活福祉資金受付実績

(単位：円)

貸付資金種類		平成30年度				平成29年度	
		申込状況		決定状況		決定状況	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
総合支援資金	生活支援費	0	0	0	0	0	0
	住宅入居費	0	0	0	0	0	0
	一時生活再建費	0	0	0	0	0	0
福祉資金	福祉費	23	2,032,000	23	2,032,000	20	5,275,000
	緊急小口資金	13	1,133,000	13	1,133,000	12	1,080,000
教育支援資金	教育支援費	2	1,306,200	1	1,056,000	1	1,405,000
	就学支度費	11	2,240,800	8	1,701,000	8	1,977,000
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	0	0	0	0	0	0
	要保護世帯向け不動産担保型生活資金	0	0	1	4,452,000	0	0
合計		49	6,712,000	46	10,374,000	41	9,737,000

<臨時特例つなぎ資金> (大分県社協受託事業)

活動計画 基本目標1

住居のない離職者に対して公的給付及び貸付制度交付までの当面の生活費を貸付し自立支援を促す事業で、平成28・29年度はそれぞれ1件10万円の貸付がありましたが、今年度の相談傾向としては、病気（特に精神疾患）や障がい（発達障がいの疑いのある人）のため、再就職よりも治療を優先するよう医療機関へ繋いだり他の社会資源を活用したことで貸付申請には至りませんでした。

<日常生活自立支援事業> (大分県社協受託事業)

活動計画 基本目標3

本事業を通して、病気や障がいにより判断能力の不十分な方が適切な福祉サービスを利用することで安心した地域生活が送れるように支援するため、行政や事業所等関係機関と連携を図ることで制度への周知と理解を図ることにより新規契約件数が前年度の約6倍に増加しました。

また、周知により制度需要に対し安定した支援員確保及び成年後見制度への円滑な受け皿体制としての権利擁護支援並びに成年後見制度の適切な利用促進のため、新年度から市民後見人養成講座を開講する予定です。

□初回相談受付の状況（平成30年4月～平成31年3月末）

	認知症高齢者等	知的障がい者等	精神障がい者等	その他	合計
平成30年度	44	3	19	22	88
平成29年度	53	8	20	10	91

□契約締結の状況（平成30年4月～平成31年3月末）

年度	年度当初 契約件数	新規契約件数	解約件数	年度末 契約件数
30年度	35	17	5	47
29年度	40	3	8	35

□日常生活自立支援事業利用状況

□世帯別利用状況

区分	30年度	29年度	一般世帯			生活保護世帯			合計		
			人数	回数	預件数	人数	回数	預件数	人数	回数	預件数
利用者数（人）	464	457									
利用回数（回）	941	864	130	257	130	334	684	334	464	941	464
預り件数（件）	464	457	123	209	123	334	655	334	457	864	457

<認知症総合支援事業>（別府市受託事業）

活動計画 基本目標3

相談支援体制の構築において、初期集中支援チームへの相談や地域活動から相談を通じて地域住民の方へ正しく認知症の理解促進のための普及啓発活動の実施や、認知症の方への声かけ模擬訓練への協力、また、専門職がつながり問題意識をもち活動していくためにキャラバンメイト連絡会の立ち上げを行いました。

相談において、若年性認知症の相談は4件。若年性認知症の人の生活のしづらさとして、高齢者とは異なる生活のしづらさがあります。また、家族関係に大きな影響を与え経済的に困窮する可能性が大きく、適切な社会資源がないのが現状です。

若年性認知症の人のニーズにあった関係機関やサービスの担当者との調整が必要であり、本人や家族の支援を行い、必要に応じ職場や福祉サービス事業所等と連携し、就労の継続や居場所づくりに働きかけ行政と役割分担を協議しつつ、本人が自分らしい生活を継続できるよう本人の生活に応じた総合的なコーディネートを行います。

□認知症初期集中支援事業 実施報告

支援対象者	62人（男性24人、女性38人）
	50歳代 1人（2%） 60～64歳 3人（5%） 65～69歳 1人（2%） 70～74歳 7人（11%） 75～79歳 18人（29%） 80～84歳 11人（18%） 85～89歳 11人（18%） 90歳以上 5人（8%） 不明 5人（8%）
世帯状況	独居 29人（47%） 夫婦のみ 19人（31%） その他 14（23%）
把握ルート	本人 4（6%） 家族 18（29%） 近隣 3（5%） 包括 12（19%） 民生委員 5（8%） 医療機関 8（13%） 居宅 3（5%） その他 9（15%）
会議	チーム員会議（14回） 検討会議（1回）
支援終了状況 （引継ぎ先）	医療機関 7（11%） 包括 12（19%） 居宅 2（3%） 相談のみ 23（37%） 行政 1（2%） 民生委員 2（3%） 継続 14（23%） その他 1（2%）

□認知症地域支援・ケア向上推進事業 実施報告

区分	平成30年度 実施回数	平成29年度 実施回数
地域住民説明	16	4
事業所説明 （包括等）		4
オレンジカフェ 別府	6	5
おしゃべり サロン鈴隣輪	11	3
徘徊模擬訓練の 協力	1	
キャラバンメイ ト連絡会	1	
認知症市民講座	1	
その他活動報告	2	11
計	38	27

## <居宅介護支援事業>

活動計画 基本目標3

地域の介護資源の把握、地域福祉主体の運営及び事業展開を視野に居宅介護事業の拡充に努めました。

解約件数は14人あり、内訳として施設入所(6人) 転出(1人) 死亡(5人) 入院(2人) となっており、新規契約(5人) 更新時に要介護者が要支援者に介護度が下がった(4人) 理由を踏まえ、居宅介護サービス計画の減少、介護予防計画の大幅な増加となりました。

### □指定居宅介護支援事業実績

内訳	年度	
	平成30年度計	平成29年度計
調査 別府市	23	22
調査 市外	2	2
居宅介護サービス計画	279	338
介護予防計画	47	6

## <訪問支援事業>

活動計画 基本目標3

多様化、複雑化するニーズへの対応や、在宅福祉活動の取り組み事業を強化するために、「別府市社会福祉協議会指定訪問介護事業所」を平成31年3月31日をもって閉鎖することになりました。他事業所への引継ぎを早い段階から行ったため、大きな混乱なく移行することができました。次年度は清算事務が残っているため遺漏ないように処理します。

### □訪問支援事業実績

介護従事者数・・・担当職員3名、登録職員8名

### 1) 介護保険サービス事業

#### □利用回数

内訳	身体	生活(家事)	予防訪問介護総合事業
30年度回数	364	927	496
29年度回数	714	1,728	618

#### □利用状況

年度 内訳	30年度計	29年度計
	人数	145
回数	1,787	3,060
時間	1643.5	2,664

## 2) 総合支援サービス事業

### □利用回数

内訳	身体	生活(家事)	移動支援	同行援護
30年度	939	633	56	116
29年度	948	789	99	177

### □利用状況

年度 内訳	30年度計	29年度計
人 数	205	199
回 数	1,744	2,013
時 間	2669	3,220

## 3) 自立生活支援有償ホームヘルプサービス事業

### □自立生活支援有償ホームヘルプサービス事業実績

年度 内訳	30年度計	29年度計
人 数	56	69
回 数	444	221

## <その他の社会福祉活動>

### ◆福祉まつりの開催

#### 活動計画 基本目標2 (発展強化計画 基本目標1)

高齢者・心身障がい者(児)の方々をはじめ、市民だれもが地域社会の中で安心して心豊かに暮らしていける地域福祉を実現するために第31回別府市福祉まつりを開催いたしました。

一昨年から実施しているサブステージも上段ステージを盛り上げていただきました。今回試みましたが、障がいの方や小さな子どもをお持ちの方等が安心してオープニングステージに参加できる「やさしさゾーン」や、出店団体にも参加いただいたふくしのスタンプラリーも好評でした。

課題として、自衛隊の行事と重なったことや、国民文化祭の関係もあり売り場が手狭だった等が上がりました。

- ・開催日時：平成30年11月11日(日) 10時～14時
- ・会場：別府公園
- ・出店団体：39団体
- ・来場者数：21,000人(前回来場者数：22,000人)

### ◆民間社会福祉施設との協働

#### 活動計画 基本目標1 (発展強化計画 基本目標1)

市内47民間社会福祉施設の連絡会の事務局として、各施設との交流・研修等を行い連携を強化しています。総会及び役員会にて決議した上で、年間を通じて火の海まつりへの参加、親睦スポーツ大会、共同募金運動への協力、研修会を実施し、親睦・連携を図りました。

一方で、恒例の行事を継続していくほかに、新たな事業を展開できるよう、役員会等に提案していく必要があります。

- ・べっふ火の海まつり納涼音頭大会参加（参加：94名）平成30年7月29日(日)
  - ・職員親睦スポーツ大会実施（参加：108名）平成30年9月6日(木)
  - ・研修会（参加：84名）平成31年2月14日(木)
- 講演「OitaAidのあゆみ」、講師：井野辺病院院長 井野邊純一氏

#### ◆社会福祉事業功労者表彰式の実施

##### 活動計画 基本目標4（発展強化 基本目標1）

社会福祉関係者をはじめ、福祉意識の啓発・連帯と交流の輪を拡げ、永年社会福祉の増進に貢献された方々を顕彰するため、第38回別府市社会福祉大会「社会福祉事業功労者表彰式」を開催いたしました。推薦依頼を行った際、一定の施設・団体からしか出てこない傾向があったので、例年より2か月早い時期（10月）から推薦の依頼を行い、地区社協及び民間社会福祉施設連絡会等への周知依頼の強化を行うなど、福祉意識の啓発に努めました。

- ・開催日時：平成31年3月6日（水）10時～11時50分
- ・場所：別府市社会福祉会館 大広間
- ・表彰者：社協会長表彰20名・1団体 社協会長感謝状2名・13団体  
共同募金委員会会長表彰5自治会 共同募金委員会会長感謝状1名・3団体
- ・特別講演：演題 いっしょにやる、ということ「共感」から「共働」へ  
講師 九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏

#### ◆紙オムツ低価格斡旋事業

##### 活動計画 基本目標1

一般募金配分金から在宅で紙オムツを必要とする高齢者に低価格で斡旋しています。平成30年度は51,230円を助成しており、前年度より17,840円増です。

#### ◆一人暮らし高齢者への乳酸菌飲料の配布声かけ運動の実施

##### 活動計画 基本目標1・3

一般募金配分金からひとり暮らしの高齢者（70歳以上）で近親者が近くに居住していない方に対し、乳酸菌飲料の配達を通じて安否確認と、健康保持を行うことを目的として行っています。

また、人数について伸びていない点については、周知が行き届いていない点があることから、地域での見守り・支援体制の充実・強化の観点から、民生委員・児童委員等との連携を図りながら真に必要な人への事業周知をする必要があります。

平成30年度は延べ169名に2,094本配布しており、前年度より延べ人数は変わらず、24本増です。平成30年度金額83,674円（平成29年度金額82,676円）

高齢になっても健康で安全にひとり暮らしを続けることができるよう、今後も継続的に支援します。

◆別府市社会福社会館事業【市指定管理】

発展強化計画 基本目標 1

福祉関係者の利用と市民の文化・教養の場として多目的大広間・小会議室・作法室・相談室を備え、平成6年8月より設置しております。

別府市の施設である別府市社会福社会館について、玄関ロビー周りの美化、模様替えや熱中症一時休憩所の開設等、指定管理者として適切な運営につとめました。また、社協だより9月号にて利用促進を呼びかけや1月号から会館予約受付開始のお知らの掲載及びホームページでの会館紹介に取り組みました。

【利用者数】 (単位：人)

項目	大広間	小会議室	作法室	合計	免除
30年度	15,339	1,770	1,966	19,075	6,460
29年度	15,798	1,651	2,030	19,479	6,843

◆別府市北部コミュニティーセンター事業

発展強化計画 基本目標 1

市民のふれあい、福祉の増進及び、教養、文化の場として利用されることを目的とし、平成16年10月5日に開設いたしました。

また、社協の情報発信の拠点として活用し、車いすの貸し出しや香典返し・一般寄附の受付も実施するなど、福祉の増進利用者へのサービス向上と情報の共有に努めました。

【利用者数】 (単位：人)

項目	ホール	第一会議室	サークル室	娯楽室	第二会議室	相談室	室計	健康器具	卓球	囲碁・将棋	器具計	合計
30年度	7,042	931	2,513	330	843	153	11,812	6,974	1,413	1	8,388	20,200
29年度	7,233	1,119	2,122	85	876	181	11,616	7,618	1,617	0	9,235	20,851

◆福祉資金貸付事業

活動計画 基本目標 1

別府市社協独自財源で低所得者世帯を対象に、50,000円を限度額とした貸付事業です。

近年の相談者の大多数は要保護世帯のエアコン購入相談または離職に伴う生活再建相談で本制度貸付限度額以上の資金を必要としたため大分県社会福祉協議会から受託している生活福祉資金で対応したため、27年度から引続き申込がない状況です。

なお、受託事業貸付制度の対象外案件のため事業継続を行っていますが、今後の課題として4件の収入未済額の借受者等への償還依頼について支障をきたしている状況です。

- ・対象者 低所得世帯
- ・貸付限度額 50,000円

(単位：円)

区分	貸付件数	貸付額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収納率(%)
過年度(H15~H24)	4	200,000	87,500	2,000	0	85,500	2.29

※過年度償還完納 0件 次年度繰越収入未済 4件



## ◆車いすの貸出し事業の実施

### 活動計画 基本目標 1

在宅福祉を希望される方で、車いすが必要な方に無料で貸出を行っています。30年度はホームページや広報誌で積極的に周知すると共に、「あすなろ館」での貸出しも北部方面利用者に定着してきたことにより貸出し件数の増加につながりました。

○平成30年度貸出し件数 330件 （平成29年度貸出し件数 243件）

### 《附属明細書》

上記の事業報告に関して、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定されている附属明細書については、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので附属明細書は作成しておりません。

### 【社会福祉法施行規則第2条の25第3項抜粋】

（事業報告）

社会福祉法第2条の25 法第45条の27第2項の規定による事業報告及びその附属明細書の作成については、この条の定めるところによる。ただし、他の法令に別段の定めがある場合はこの限りではない。

2 （略）

3 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。